広報 なかわだ

第 355 号

2009 年 4 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141
http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/

平成 21 年 4 月 5 日

4 月の予定

教会委員会	4 月 19 日
典礼委員会	4 月 5 日
受難の (枝の) 主日	4 月 5 日
聖木～土曜日	4 月 9 ～ 11 日
復活の主日	4 月 12 日

復 活 祭 を 迎 え て

主任司祭　小 林　陽 一

寒い日と暖かい日が交互に訪れ、とうとう 4 月の復活祭を迎えることとなりました。

主のご復活おめでとうございます。新しい学校へ入学した方、入社された皆様、おめでとうございます。

4 月になると、若い人達が一段と成長し、言葉にも活動にも力強さを感じます。背丈もぐんと伸びて、大人びた服装をすると、誰だったかなと思う時もあります。教会に青年や学生のみなさんが見えると、活力ある教会が出現いたします。

中和田教会は、少しずつ若い人達が入って来られ、ご年配の人達の中で若者の声が求められています。やはり、若者が教会の中で発言し、少数であっても、「こういう教会にしたい」という声があると、その意見を聞き、加勢する人達が出てまいります。復活祭を迎えて思いますことは、ご年配の人達が頑張っておられる中で、若者の声が聞かれる教会になりますようにと切に思います。

2009 年に入って、中和田教会の現存のあるグループで、司教教書『交わりとしての教会をめざして』というパンフレットを 10 分くらいかけて交替で読んで、感想を話し合いました。そのグループは、毎週 6 ～ 7 人が顔を合わせていますので、思ってもみない感想がたくさん出されました。話し合っている皆さんは、生き生きとして輝いていました。普段あまり声を出さずに聞き手にまわっている人も感想を言ってくれました。聞き終わって、この集まりで、なんという実感がこもった話が、こんなにもたくさん出たことかと思いました。

この司教教書を読む集まりは、意見を言って、その意見に対し「私は反対だ」と言って議論をする集まりではありません。どんな意見も一つ一つよく聞いて、可能な範囲内で生かしていけばよいという集まりです。私たちの教会づくりに何らかの意味でプラスになるよう願って、この話し合いを行っています。

まだ司教教書『交わりとしての教会をめざして』を広げて読み、話し合う集会をもっておられないグループは、是非取り組んでみてください。典礼委員会、宣教委員会、要理学校の親の会、中高生会、レジオ・マリエ、ヨゼフ会、福祉委員会、事務グループ、教会委員会、お掃除のグループ、行事委員会の各担当グループで、できたら、若者も誘っていただいて、読み、話し合っていただきたいのです。以上のグループが司教書簡を読んで話し合うとき、助言者として主任司祭をお呼びいただきたいと願っています。

復活祭を迎えて、中和田教会の様々なグループの、グループ内の交流が、司教書簡を語り合うことで、ちょっとでも進みますよう願ってやみません。

典礼こよみ （4 月）

日	曜		ミ サ ・ 勉 強 会	備 考
3	金		初金ミサ (10 時)	十字架の道行き（9 時 30 分） 掃除 1 G
4	土		主日ミサ (18 時)	
5	日	受難の主日 (枝の主日)	主日ミサ (9 時)	大掃除 典礼委員会
9	木	聖木曜日	ミサ (19 時)	
10	金	聖金曜日	祭儀 (19 時)	十字架の道行き（9 時 30 分）
11	土	聖土曜日 (復活徹夜祭)	ミサ (19 時)	掃除 2 G（9 時 30 分）
12	日	復活の主日	主日ミサ (10 時)	
18	土			掃除 3 G（9 時 30 分）
19	日	復活節第二主日	主日ミサ (9 時)	教会委員会
25	土			掃除 4 G（9 時 30 分）
26	日	復活節第三主日	子どもと共に捧げるミサ (9 時)	

パウロの宣教地を訪ねて

下村　毅

パウロ年にあたり、2009年1月パウロの宣教地「トルコ・ギリシャ巡礼」の恵みをいただきました。同行司祭はパウロ会夫津木神父（前官区長）と、信徒4名の少人数の巡礼団でした。

私は事前の勉強不足で、神父様や添乗員（パウロをこよなく愛されている方）に説明されても、（元々横文字嫌いのため）人名なのか地名なのかも理解できませんでした。廻った都市は、5千年前に形成され、トルコは地震が多い所で遺跡は何度も崩れ復元された物でした。現在では、神殿の倒壊が免れた大理石の柱や列柱、道路の舗装石（大理石盤は凸凹だが、馬車の轍もある）、そして、劇場の観覧席や貴賓者通路・壁の多い浴場跡・市場（アゴラ）の貯水槽などが一部残っておりました。

広報Gより「投稿を」と頼まれましたが、何を書いたら良いのか悩みましたが、巡礼で私なりに知りえたことを中心に、1回目は「どちらがパウロ」・2回目「パウロの宣教足跡の紹介」・3回目「アジアの七つの教会」に分けて載せていただくこととしました。

第1回　「どちらがパウロ」

パウロと言えば「ユダヤ教からキリスト教への回心」と「トロコ・ギリシャへの三回におよぶの宣教」だと思います。（詳しくは2回目に紹介します。）

肖像画に見るパウロ

左側の肖像画は、宣教時のものです。宣教は徒歩で20,000km、船で9,000kmにもおよんだとの説もあるようです。パウロは貧弱な体で「がにまたの小男」と言われたようです。宣教時は「キリストの復活」などが受け入れられず、鞭打ちの刑・石打の刑・投獄など幾たびか受けました。

「どんなことにもへこたれない鋼鉄の様な意志を供えた人」で、私達にいろいろ教えてくれています。

右側の写真は、「ローマ城外の聖パウロ教会」正面の大きなパウロ像です。がっしりとした体で「キリスト教迫害のシンボルの剣」を持っています。ですから、上の肖像画と写真は共にパウロです。

パウロの生涯を追って見ましょう。

＊ 西暦6年（頃）に「（トルコ国）キリキア州タルソ」に生まれました。タルソは「綿の名産地」であり、テント屋を職業としていた時期があったようです。

＊ 信仰はユダヤ教徒のファリサイ派でした。（ファリサイ派は熱心な信徒の集りで知られています）。

＊ 30歳頃、ユダヤ教徒のパウロは、現在のシリアの首都ダマスコ郊外で、キリスト教徒を迫害していた時、突然天からの光が彼の周りを照らし「サウロ（パウロ）・サウロなぜ私を迫害するのか」と、ゴルゴダの丘で十字架につけられた、ナザレのイエスに呼び掛けられました。ここで、復活されたキリストとの出会いが、「パウロの回心」に繋がっています。（使徒言行録9章1～6）

＊ 回心後、エルサレムで信仰を深め、西暦37年タルソに戻りし使徒職として充電したようです。

＊ 西暦46年（40歳頃）に第一回目宣教の旅に出発し、第二回目宣教の旅は地中海を渡りアテネ・コリントまで足を伸ばし、第三回目宣教の旅は西暦54年に出発しています。

＊ 第三回目の旅後、西暦61年パウロ55歳の時、船でローマへ向い、66年再び投獄されました。

＊ ローマの市民権：タルソ生まれのパウロは（祖父か父が取得した）市民権を持っていました。

＊ 西暦67年、パウロは61歳。ペトロのように十字架につけられることは許されず、（ローマ市民のため）ローマ郊外のトラピスト大修道院（現在の）で斬首の殉教でした。パウロの首が地に落ち、階段を三度ころげ落ちた地点に、フォターナ（三つの泉）が湧き出した、と言われています。　そして「パウロの棺」は、「ローマ城外の聖パウロ教会」に安置されています。

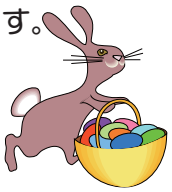
（私は、2000年に巡礼した時に「ローマ城外の聖パウロ教会」と三つの泉を巡礼しました。）

３月の要理学校だより

マリアの宣教者フランシスコ修道院のシスター谷口をお招きして、子ども達とお母様方のために信仰教育についてお話を伺いました。

シスターのお話を聞いて　森脇　真美

３月15日（日）シスター谷口が中和田教会にいらっしゃいました。
最初はシスターと一緒に、お母さん方の作ってくださったサンドイッチを食べて、その後、いろいろなお話をしていただきました。
シスター谷口は、とっても神さまに包まれているような感じがしました。
そして、私が一番心に残っているのは、シスター谷口がシスターになった理由です。シスター谷口は、昔、お見合いの話がきた時、自分はこっちの道じゃないと思い、その後、修道院に入って、自分はこの道だったんだと気づき、シスターになられたということです。
私も、将来どうなるか分からないけれど、神さまの導いてくださった道を進んでいきたいです。



シリーズ　中和田教会共同体の皆さんのお話を聞こう！　(2)

石井悠子さんのお話を聞いて　萱場　麻里

先日、要理学校の子供たちの為に石井さんが、霊名のお話やご自身の小学生時代の出来事を話して下さいました。
ご自身が体験された貴重な出来事を子供たちに分かりやすくお話してくださったので、教会に行く気持ちの大切さ、見た目にこだわらず着飾る必要などないのだという事を、子供たちも理解出来たのではないかと思います。
親の私たちにとってもよいお話を聞けて心に感じるものがありました。
霊名のお話では子供と再度、自分の霊名の人物はどんな人なのか？ どんな行いをした人なのか？ 親や周りの人がどんな気持ちで付けてくださったのかなど、子供と話し合う良い機会になりました。
どうもありがとうございました。

石井太一

おばあちゃんのお話をききました。弟がみっともない服を着ていたので、教会につれて行ってもらえなかった。家に帰らず、川でいかだをつくって乗っていたら、落ちて死んでしまいました。つれて行ってあげれば良かったのにとおばあちゃんは悲しかったんだなと思いました。

石井かすみ

教会に行く時は、特別にきれいな服装でなくていい。めだっちゃだめなことを知って良かったと思います。これからも守っていきたいと思います。

お知らせとお願い

中和田教会・福祉グループ

2009 いのちを守るための緊急呼びかけに応えて・・・

支援ミニバザーを行います

昨今の経済危機によって、海外移住者を含め多くの人々が生活に困難を抱き、生命の危機にすら追い込まれるという状況に対し、日本カトリック司教協議会、カリタスジャパンから、緊急の募金・物資の支援への協力の呼びかけがありました。

これに応えて、当教会では、ミニバザーを行って、資金や物資を調達しようと考えました。
皆様のご協力とお祈りをお願いいたします。

◆ミニバザー開催日：　４月 26 日（日）ミサ後（午前 10 時くらいから）

当日晴天なら外で、雨天なら新集会室で行います。
なお、コーヒーの有料サービスもあります。

◆ご寄付いただきたい物：

・新品不用品　　・手作り品、
・食品類（米、パスタ類、インスタントラーメン、カップラーメン、小麦粉、食用油、砂糖、塩など）
・生活物資（トイレットペーパー、洗剤、乳幼児用ミルクなど）
⇒　聖堂入り口に箱を用意しますので、そこに入れて下さい。

協　調　・　協　働

石井　三雄

'08年10月、33年前に建設したアルジェリアのガス製造プラントを再訪する機会に恵まれた。その場所はサハラ砂漠の入り口に位置し、立地・気象条件（夏は50度冬は－5度）など、全てが過去の建設現場とは比較にならない過酷な地域だった。

10月のサハラは穏やかな気候だった。現場に降り立つと、当時の情景が走馬灯のように浮かんできた。当時の建設現場の殆んどが辛い、苦しい事の連続だったが、プラントを眺めていると、不思議と懐かしさが去来した。中にはしきりに目頭を押えている同輩もいる。時の経過と共に苦しみは薄れて行くものなのだろうか。

建設には日本から派遣した各工種の責任者が現地の人々（最大時で2000人）を指導しながら工事を進めていく計画だったが、言葉・習慣、それに国民性の違いが最初から大きな障害（工事の遅れ）となった。日本の職人は普段日本で使っている工具・工法を念頭において指導していたが、彼らには理解出来ず、この反目が徐々に反発したため作業が滞り、さらに資材の搬入が現地の業者による商習慣の違い・発注ミスなどが重なり、これらが工事の遅延を増幅する要因となっていた。現場は反目が改善されず、膠着状態の日々が続き、客先からも現状回復の要請が出るようになっていた。

しかし、現場ではさらにエスカレートして、両者の不満が憎しみに変わり始めていた頃、まさに現場の確執を変える劇的な事件が起きた。

彼らが最も恐れている「つの蛇」を日本の職人が素手で捕まえ、彼らの見ている前で上顎と下顎を持って引き裂いたのだ。遠巻きに観ていた現地人は茫然自失の状態だった。　現場では「さそり」を良く見かけるが、彼らはほとんど気にしない。刺されても死に至ることは先ず無く、2日ぐらい横になっていれば回復するからだ。しかし、「つの蛇」はいまだ血清がなく、もし噛まれたら数分の内に絶命する事を現地の人々は知っていたからだ。

この事件以来彼らの態度が変わった。その職人は「グラン・シェフ」と呼ばれるようになり、監督の指示より彼の命令に従うようになった。我々は形無しだが、これをきっかけに相互理解が芽生えた。彼らの言葉を習得して指導の中にこれを織り交ぜ、彼らも簡単な専門用語を理解してくると徐々に現場の雰囲気が変わり始めた。

人を使うという対人関係に於いて、歴史的に見て、植民地統制に長けた欧米人にはない日本人の特性が存在する。圧倒的に涙もろい事と、命令ではなく指導するという態度と同時に上下関係を作らず、協働（悪い意味ではすぐに手伝ってしまう）することで工事はようやく軌道に乗りだした。結果、工期は予定より早く竣工する事が出来た。

何人かの職人は現地人の結婚式にも招待されたり、ベトウィン（サハラの先住民）の大祭に主賓で招かれるような事もあった。現地の習慣を理解し彼らと協働した結果に他ならない。赴任当時は辛いことが多かったが、後半は懐かしい思い出が残った現場だった。これらの事柄がつい最近の出来事のように蘇ってきた。

このプラントの竣工後、製品を出荷しだしてから30年以上経つこのプラント（施設）は、稼動効率がほとんど落ちず、スナトラック（アルジェリア石油・ガス公社）の国内で優良施設として海外に紹介されているとの話だった。

我々一行12名は大変な歓迎を受けた。このサイトのPM（プロジェクト・マネージャー）は自分と年齢で一回り違うが、この現場に於いて彼からの色々な相談に対応した事が、印象に残っていたようだ。

未だテロの心配が残るアルジェリアは、外務省の渡航情報によると、アルジェ市以外は渡航の延期又は是非を検討するように発出されている。そのためアルジェリア国内での車両による移動をとても心配して、彼は軍・警察に我々の警護を要請してくれた。この結果主要な交差点での警備が実施され、我々はアルジェリア国内だけで 2.800km に及ぶ距離を安心して移動することが出来た。

また 100km 離れた宿泊地の観光都市から現場を訪問するとき、途中から軍の車両がキャンプまで先導してくれた。このような対応を受けるのは VIP が移動するときに限られるとの事だった。

キャンプでは更に手厚い持て成しを受けた。PM からの強い宿泊要請に、喜んで予定を変更した。お陰でホテルまでの往復の移動時間の節約と日本食・大浴槽・個室など、この国のどのホテルより寛ぐことが約束されたので、歓迎会は時間の経つのを忘れ夜が更けるまで続いた。

宴のあと、高揚した気持ちで部屋に戻るとき、満天の星空を仰ぎ見ながら、物事を遂行するときに「協調・協働」することの如何に大切な事かを再認識する機会にもなった。

それは 33 年前、この地に赴任するときのことを明確に思い起こしていた。これから過酷な現場に赴任する自分にとって不安に取り囲まれているような状態だった。丁度この時期マザー・テレサの伝記を読んでいたこともあり、マザーがインドに赴任するときの心境はどのようなものだったのか、大変興味を持った。が、マザーは主に全幅の信頼を寄せていた上での赴任だった。これは自分の参考には為らなかったことを覚えている。

マザー・テレサは 1950 年インドのコルカタでヒンズー教の廃院を譲り受けて「死にゆく人の家」というホスピスを開設した。たった一人でその地に赴き行動を開始したが、そこでは「逝く人」の宗教を確認し、その宗教に従って葬送した。自身の宗教を押し付けるのではなく、全く対等に接し個人の尊厳を優先させた行為、これが世界の人々の共感と感動を生んだのではないだろうか。マザーの揺るぎない信仰心の表れである。

普通は死後 50 年から 100 年の期間が必要とされる福者の審査を死後 6 年で列福されたマザーだが、晩年、「神の沈黙と不在」に絶望し孤独に苛まれていた事が死後公開された書籍で明らかにされた。

キリストがオリーブ山の麓にある、ゲッセマニの園で御父に杯を返杯しようと望まれたとき、また十字架に付けられ死を迎えるときにも沈黙されていたように、主はそこまでマザーを愛されたのだろうか。

マザー・テレサは“宗教を超えて”を実践された。それはマザーが自ら協調したのではなく、周囲の人々の無理解・誹謗中傷を受けながら孤立無援の中で、その救命活動を通じて愛の行為（真理）に世界中の人々が気付いた事に他ならない。

「協調」は自分から歩み寄ることも必要だが“真理”を行ったとき人々が歩み寄って来ることになるのだろう。

このような大それた行動は無理としても、日常生活を通して“宗派を超えて”を意識することは有意義なことだと思っている。

キリスト教もイスラム教も元はユダヤ教から発出している。ましてプロテスタント、カトリックは近い関係に位置しているのではないだろうか。さらに他の宗教を理解することは我々（カトリック）も理解されることに他ならない。

マザー・テレサのような“揺るぎない信仰”を持って行動すれば、互いに「協調」できる何かを見出す事が出来ないだろうか。

情けないことに今の自分は日々の生活の中で、歩み寄ったと思っても協調されない事のほうが多い。

バザー担当グループ（クララ・グループ）からのお願い

今年もバザーに向けて準備を開始しました。　皆様のご協力をお願い致します。

・5 月から新品不要品や、手作り品、衣類 (洗濯済みのもの) 等を集めます。
　聖堂入り口のホワイトボードの下の段ボール箱にいれて下さい。
　尚、4 月中はミニバザーの為の収集ですので、お間違えのないようお願い致します。
・毎月第 4 木曜日 (午前 10 時から) をバザーのための活動日と致します。　（代表：石川）

委員会だより

〈3月8日（日）11名出席〉

■審議事項

(1)トイレの件
11日完成、12日からの使用開始。特にトラブル無し。11日に祝別式。

(2)教会敷地の境界線
2／25に境界線の確認を実施、特に問題は無いことが分かった。ブロック塀は壊され、コンクリート壁に改装される。これに伴い花壇を壊し、空き地を有効利用する。

(3)小笠原神父様の講話会
大勢の方が参加される見込み。他教会からも15名ほど。40～50名程度になりそう。

(4)共同回心式
3／28（土）黙想会・共同回心式岩間神父様
3／29（日）癒しの祈りと共同回心式
土曜日に来られない方のために。
10：30から11：00小林神父様講話、この後癒しの祈りと回心式。

(5)第5地区共同司牧委員会（2／15）
①宮内神学生が来春叙階式。第5地区で叙階準備委員会を作る。各教会から1～2名の担当者を選び推進。井上宣教委員に推薦を依頼中。
②司教を囲んで5／23～24に教区懇談会を実施。共同宣教司牧に向けた教書につきアンケート回答が必要。まず教書を読むこと、いかなる問題、課題があるかを考えることを関心のある方々で集まり検討。
③横浜教区で経済問題評議会を立ち上げた。各教会の委員長と財務委員が出席を要請されている。
④社会司教委員会
いのちを守るための緊急アピール：不況による生命の危機に対応するための緊急募金の呼びかけが来ている。
一方横浜教区難民移住移動者委員会から、静岡県西部地区の南米からの3万人の滞在者への、生活物資の支援を依頼されている。福祉Gから浜松教会に電話した所、全国から物資が届き始め配給開始されているとのこと。物資のみならず、お金での対応も考える。
最近この件以外にも、複数の緊急支援の話が入ってきており、今後の進め方について、愛の献金を考える会と福祉Gとで検討を進める。福祉Gとしては、箱を置き、物資他を集めることを考えたい。
⑤定額給付金に関する提案
藤沢教会より、定額給付金の有効活用等も含めた種々の提案がある。

(6)第5地区キリスト教セミナー
従来は有志教会が実施し他教会は支援だったが、第5地区の全教会の参加、恒常的な委員会にて対応となった。中和田教会は井上委員、石川さんが参加。
今年の会場は中和田教会、80～90名程度の規模。講師他は今後セミナー委員会にて検討される。

■各グループ連絡・報告事項

a.財務G：
オルガン献金：3／8現在で30万円、25～30名。希望額の20万円は達成したが、しばらく継続する。

b.宣教G：
◆戸塚教会からのメールで、日本聖公会の救済活動に対し、支援活動の即時停止を近隣から要請され、これに対する対応・支援を依頼された。
◆堅信の勉強会：月二回のペースで勉強中。計10名。
◆この4月に4名が高校に、3名が中学に進学するので、22日の子供ミサで、紹介と簡単なお祝い会を予定。

c.典礼G：
左記が提案され、了承された。
◆枝の主日前後の大掃除は若い人の参加も欲しいので、土曜日でなく4／5（日）としたい。
◆4月は第二週が復活の主日なので、委員会は第三週に移動する。
◆カテケーシスに関するテキスト入手、配布

d.営繕G：
手ぬぐいの撤去に関し掃除のグループからの提案あり。委員会了解。

e.行事G：
復活祭のパーティーの準備をモニカGで準備中。左記の通り委員会了承。
予算3万円（昨年は1.8万円ですんだ）
アルコールは無し。復活祭卵を作る。
サンドイッチと子供向けお菓子、飲み物。更に持ち寄りのような強制ではないが差し入れも歓迎。

■小林主任司祭より
◆3／22要理学校でSr.谷口をお招きし、お話しを聞く。
◆近隣の土地との境界は特に問題無く、確認された。ブロック塀は既に壊されコンクリート塀が設置されるが、3／10頃立ち会いが必要。
◆共同回心式3／28の段取りが下記の通り確定
13：30講話
14：30ミサ
15：30赦しの秘蹟
16：30～17：00懇親会
◆6／7堅信式
宣教委員会にもっと子供達や若い人達が参加出来る企画を考えて欲しいと依頼した
◆5／3宮内神学生の叙階式at山手教会、出席乞う
◆3／20伊藤神学生の助祭叙階式at名古屋。挨拶状が来ている。
◆隣家より自宅改修に伴い、緊急時の駐車を依頼された。諾回答したい。

委員会後記　小野委員長

■四旬節に入りましたが、皆様も昨今の荒っぽい市況の動きに心を痛めておられることと存じます。出口の見えない不況の中で職を失って衣食住全てに困窮されている方々も多く、日本カトリック教会全体で助け合いの呼びかけや活動が始まっております。これに呼応する形で、既にご案内の通り当中和田教会でも福祉グループ主導で4月26日（日）の主日ミサ終了後にミニバザーを開催致します。当然ながら、この活動は決して福祉グループだけの活動ではなく、教会挙げて盛り上げていく必要があると考えます。困っておられる方々の少しでもお役にたてるよう、皆様のご参画とご協力を切にお願い申し上げます。皆様のご協力で得られた浄財は、同様の活動を行っている近隣カトリック教会とも連携して有効に活用させて頂きます。重ねてご協力の程宜しくお願い申し上げます。

■聖堂のオルガンが老朽化して新規にオルガンを購入する必要が生じ、この為の「オルガン献金」を皆様のご賛同のもとでお願いして参りましたが、皆様のご理解とご協力により、想定していた金額を超える献金が集まりました。結果詳細につきましては金額確定後に報告申し上げますが、皆様のご理解とご協力まことに有難うございました。厚く御礼申し上げます。
6月7日に司教様をお迎えして挙行される堅信ミサは新オルガンで対応出来る予定です。是非楽しみになさっていて下さい。